

第 15 回情報システム学会 全国大会・研究発表大会 開催報告

実行委員長 中鉢 直宏（帝京大学）

第 15 回全国大会・研究発表大会を 2019 年 11 月 30 日（土）に、帝京大学 八王子キャンパスで開催しました。当日は、キャンパスから富士山が望める晴天に恵まれる中 105 名が参加する大会になりました。本大会は、「情報システムが変革する社会と人間活動」をテーマに掲げ、32 件の研究発表と 25 件のポスターセッション、2 件の基調講演が行われました。1 件目の基調講演は、産業技術総合研究所・人工知能研究センター・副研究センター長麻生英樹先生に「実世界に埋め込まれる AI」というタイトルでご講演頂きました。2 件目の基調講演は、東京大学大学院工学系研究科・教授堀浩一先生に「人工知能として認識されない人工知能の埋め込まれる社会へ向けて」というタイトルでご講演頂きました。また、基調講演の後に、今年度の浦昭二記念賞についての報告があり、今年度は受賞者なしとの報告がなされました。

研究発表の後は、今年で 2 回目となるポスターセッションが開催されました。学生の発表の場として設けられたこのセッションは昨年に増して多くの発表が行われました。発表する学生と参加者との熱心なやり取りは、本学会の人間中心という考えにふさわしいものになりました。ポスターセッションに続いて、ソラティオスクエア 20 階のラウンジにて情報交換会が開催されました。ベストペーパー賞、ベストポスター賞の表彰も行われ、大いに盛り上がりました。至らない点も多々あったかと思いますが、大会関係者、参加者、後援、協賛頂いた企業、団体様のご協力により、滞りなく開催できましたことに感謝申し上げます。

基調講演の様子



麻生英樹先生



教授堀浩一先生